

会 派 活 動 報 告 書

令和 7年 3月28日

岡谷市議会議員

殿

会 派 名
代表者名

無会派
丸山 善行

令和6年度における岡谷市議会 会派「無会派 丸山善行」の活動について、下記のとおり報告いたします。

【活動実績】

活動項目	活動内容及び活動の実績と効果
調査研究	○活動内容 旭川市、東川町、江別市への行政視察 ○活動の実績と効果 別紙にて報告とする
研 修	○活動内容 JIAM へ研修 「議会議員特別セミナー」、「議員と防災の役割」 ○活動の実績と効果 ・研修を通じた先進的取組をする自治体の情報収集及び取組事例の共有 養父市におけるウォーターPPP の取組は導入メリットが多いと理解 ・大規模災害の現状と災害時の議員の役割について座学、ワークショップ実施 議会 BCP 作成の重要性及び議会が果たすべき役割を理解
広 報	○活動内容 該当なし ○活動の実績と効果 該当なし
広 聴	○活動内容 該当なし ○活動の実績と効果 該当なし
要請・陳情	○活動内容 該当なし ○活動の実績と効果 該当なし
そ の 他	○活動内容 定期的な市民との懇談・要望・相談を受ける等各種対応に努める ○活動の実績と効果 一般質問での取上げ、要望・相談への対応及び課題解決に繋げる

※会派活動報告書は年度ごとにまとめ、年度当該年度の収支報告書の提出に合わせ議長に提出するものとする。

※議長は、提出された会派活動報告書を収支報告書と同様に公開するものとする。

行政視察報告書

氏 名	丸山 善行
行政視察の名称	令和6年度 行政視察
日 程	令和6年11月11日(月)～11月13日(水)(3日間)
視察都市名等	(1)北海道旭川市：中心市街地活性化計画 「旭川まちなみ回遊」の取り組み (2)北海道東川町：地域活力を活かした教育環境と国際教育の推進 (3)北海道江別市：生涯活躍のまち「ココルクえべつ」
視 察 内 容 ・ 感 想 等	
(1) 北海道旭川市：中心市街地活性化計画 「旭川まちなみ回遊」の取り組み	
 【概要】 中心市街地の「都市機能の増進」・「経済活力の向上」を推進することを目的に、中心市街地活性化基本計画の策定を行った。中心市街地は重要な都市機能が集積された区域で、まちのアイデンティティを象徴する大切な空間でもある。中心市街地活性化計画の策定により、全国初となる恒久的歩行者専用道路である平和通買物公園や銀座仲見世通りを中心に、より一層の活用がされ日常的な賑わいと活性化につながっていくことを目的とした。 【事業内容】 (1) 立地適正化計画の策定 将来を見据えた都市機能維持を行うため、「都市機能誘導区域」と「地域各拠点」を設定し、都市機能の集約と誘導・役割の明確化を行う。 (2) 中心市街地活性化計画（第1期） 賑わいと回遊によって持続的な発展に向けた都市機能整備等の事業、にぎわい創出等の事業の実施。 →都市基盤は大きく整備されたが、中心市街地の定住人口の減、歩行者通行料も減少。 (3) 中心市街地活性化計画（第2期） ①旧丸井今井旭川店の再生、北の恵み食べマルシェの開催、北彩都ガーデン整備 →目標値を大きく下回ったが、基盤整備や基幹となるイベントの育成は図られた。 ②優良建築物等整備事業、まちなか移住・住み替え支援事業 →学生等を巻き込み新たな人の流れや、将来の人材育成が顕在化し市民意識にも変化。 ③観光情報センター整備運営事業、都市型レンタサイクル運営事業、案内サイン設置 (4) 中心市街地活性化計画（第3期） 旭川市中心市街地活性化協議会の設置 買物公園エリア未来ビジョンと社会実験①～④ ・居心地よく回遊しやすいエリア形成 ・チャレンジできる場と仕組みづくり ・滞在空間の設置 ・バスキングエリアの設置 ・モビリティの活用（電動カート、WHILL） 【買物公園エリア未来ビジョンとは】 「まちの顔」である買物公園を軸としたこのエリアで、活動する関係者が同じ目標を持ち、今後のまちづくりの方向性や将来像実現に向けた取り組みを描いたもの。	

行政視察報告書

視察内容・感想等



旭川市新庁舎



新庁舎内の展望フリースペース



フリースペースでの学習の様子

①視察先での特記事項（質疑応答事項等）

人口が約 32 万人弱の旭川市は、1 年前に庁舎を 140 億円で新築し、市民が日常的に利用できる配慮がいたる所にされ、夜は 9 時まで利用でき更には通年利用できることに驚いた。また、議会の傍聴もフリースペースから見られる工夫がされており、議会を身近に感じることでできる構造となっていた。

②評価、感想

都市機能の整備では、権利の輻輳が大きな弊害となっており計画的な整備が進められないことは、岡谷市においても言え難い問題といえる。また、担当者の話を聞く限り市街地活性化計画の事業実施においてはハードによる整備が主で、官民連携や地域住民との積極的な関わりといったソフト面の取り組みが進んでいない印象だった。一方で、全国初の恒久的歩行者専用道路は、安心して買い物やイベント等日常を楽しむことのできる、魅力あふれるエリアであることは言うまでもなく、こうした空間を作ること、人の流れや回遊性のあるまちづくりをすることができる重要な拠点であると理解した。

③岡谷市に反映すべき点は何か

- ・中核市であるため、同様の事業の考えは難しいにしても、歩行者が安心して買い物やイベント等日常を楽しめる空間の創出は反映できる点と言える。特に岡谷駅からレイクウォークにかけての商店街は同様の位置づけといっても良く、週末のみ歩行者専用道路等にし、魅力的なまちづくりの創出も良いのではないかな。

- ・市役所の日常的な利用の促進は大変に良い点で、1 階ロビーや 9 階に学生をはじめ市民の方が日常的に憩いの場として過ごせるような環境の整備は、積極的に取り入れても良いのではないかな。

④岡谷市政として取り組んだ場合の課題、問題点

都市機能の整備については岡谷駅前再開発や川岸学園構想、公共施設の統廃合等大きな予算を必要とする事業が山積しているため、多額の費用をかけた事業を進めることは難しい。そのため、ソフト的な事業や民間活力を積極的に活用し、行政が苦手とする部分を今後作られる「まちづくり会社」や民間と連携し取り組んでいくことが重要と考える。

⑤視察市から受けたまち全体、あるいは市政全般の印象での特記事項

中核市であり非常に大きな予算規模で、中心市街地へのハード整備が想像以上に進んでいることに驚いた。特に駅周辺のかわまちづくり計画の整備は素晴らしく、親水広場をはじめとした北彩都ガーデン等を活用した今後の利活用に期待したい。



北彩都ガーデン



旭川市新庁舎（左）



家具のまち旭川市

行政視察報告書

視察内容・感想等

(2)北海道東川町：地域の魅力を活かした教育環境と国際教育の推進について



【概要】

北海道のほぼ中央に位置する人口 8,600 人の町で、写真の町としても知られ人と文化、自然を大切にした様々な取り組みが行われ近年は人口の増加が進んでいる。とりわけ子育て・教育分野においては東川小学校を中核と位置づけ、平屋建てオープン教室や 270m の廊下、学校敷地は 4 ヘクタール、公園 12 ヘクタールと北海道ならではの広々とした学校で、学童機能を持つ地域交流センターも隣接し 400 名を超す子ども達が学びを深めている。独自の特徴的な教育プログラムとして、国際社会に通用するコミュニケーション能力の育成をコンセプトとした、新教科グローブ「Globe」が実施されており、幼・小・中(高校協力)で連携し推進している。

【実施内容】

(1) 東川小学校を起点としたまちづくり

写真の町、家具クラフトの町との観点から、施設内において日常的な芸術に触れることのできる展示等がされているため、芸術に触れ、美味しいを学びココロとカラダを育てる「楽しい」時間を創出している。また、地域交流センターを併設することで、文化活動やイベント、学びの場を地域住民が日常的に施設を利用でき、住民にとって身近で便利な空間を提供し、町全体の魅力向上や移住・定住に寄与している。

(2) 東川小学校の機能強化（ハード）

- ①東川町地域交流センターの併設
交流プラザ、多目的ホール、食育研究室、会議室等
- ②スポーツ施設が充実した東川ゆめ公園の併設
サッカー場、軟式野球場、多目的広場
- ③体験農園の設置
模範水田、体験水田、体験畑、体験果樹園
- ④プレーパークの設置



(3) 東川町の教育施策（ソフト）

- ①東川町学社連携推進協議会の設置（平成 28 年農林水産大臣賞受賞）
 - ・地域コーディネーターの活躍
 - ・コミュニティースクールの導入
 - ・ゆめスクール（小学校）、地域未来塾（中学校）の設置
 - ・部活動指導員の配置
 - ②東川町学力向上推進委員会設置
 - ・国際教育推進事業（新教科「Globe」）
 - ・幼児の英語活動（幼児センター）
 - ・小学生の英会話教室（アップルキッズクラブ）の拡充
 - ・英語教育推進員（中学校）の設置
 - ・JET 青年 17 名の活用（AET6 名、CIR8 名、SEA3 名）
- ※文部科学省による国際教育「研究開発学校」に指定される。



行政視察報告書

①視察先での特記事項（当日の質疑応答事項等）

東川町は写真の町事業や子育て支援事業等各種関連事業により、年々人口が増加し直近5年間で3.3%の移住者を中心とした人口増となっており、受け入れ施設への対応が追い付いていない状況で、空き家や宅地造成を行ってもすぐに埋まってしまう盛況ぶりである。

Q：小学校建て替えの背景や市民への意見聴取等の実施は？

A：校舎の老朽化により国の指針に合わなくなったため、広い場所でのびのびと学べる場を作ろうと検討した。住民ワークショップも開催し市民意見を吸い上げた。

Q：東川町オリジナル教育であるGlobeを取り入れた背景は？

A：子どもと外国人とのトラブルがきっかけ。正しく接し理解してもらうことを目的とした。

②評価・感想

・広大な敷地と平屋建ての新しく建設された小学校を起点としたまちづくりは、ハード・ソフト両面が効果的に作用することで初めて機能し、どちらか一方だけが優れていても、大きな効果は得られないと視察してみて感じた。

・意見交換の中で仕事自体は多くなく、都市部に働きに出ている方が多いとの話から、仕事がなくとも魅力的な要素があれば、移住者が増えることが分かった。

・魅力的なまちづくりの視点では、学校教育と子育て支援をセットとした考えが必要で、教育施設等のハードの整備やソフト面の充実だけでなく、子どもを安心して生み育てることのできる環境の整備も進める等、子育て支援も合わせて進めることが重要と感じた。

③岡谷市政として取り組んだ場合の課題、問題点

東川町の教育委員会の施策は、人口定着や移住者増加を目指し、地域資源を活用した教育施策を展開している。現在岡谷市では川岸学園構想を進めており、ハード・ソフト両面でより良い学校となるよう勧めているが、現状の計画では地域資源を活かしている要素があまり感じられない。魅力的な学校づくりには地域資源を多角的に取り入れる必要があると感じる。

④視察市から受けたまち全体、あるいは市政全般の印象等で特記事項

・写真文化の町をはじめ、豊富な水資源や大雪山「旭岳の町」、木工家具の町等様々な魅力あふれる要素に加え、新しく整備された東川小学校と給食費無償化をはじめとした子育て支援策や特色ある教育カリキュラムが魅力となり、定住人口が右肩上がりに推移していることは大変羨ましい限りである。

・ふるさと納税が16億、企業版ふるさと納税も5～6億と岡谷市と比べると桁違いな数字であり、返礼品は町特産のお米がほとんどとのこと。担当者曰く、「ふるさと納税」ではなく「ふるさと株主」という発想で、他の自治体になかった新たな取り組みをすることで、差別化を図りまちの魅力向上や価値の共創を進めている。

・2015年に開校した公立日本語学校は全国の自治体から注目を集めており、3ヵ月以上の滞在予定であれば住民要件を満たすため、留学生によって人口が年間約250人上乗せされ、地方交付税の増額に繋がっている。

東川町国際写真フェスティバル

旭川家具「君の椅子」プロジェクト



東川小学校併設「地域交流センター」



行政視察報告書

視察内容・感想等

(3) 北海道江別市：生涯活躍のまち「ココルクえべつ」



【概要】

江別市では地域特性や人口減少などの課題を踏まえ、東京圏から移住してもらうのではなく、市内に住む江別市民が生涯にわたって安心して生活できるまちづくりや、若年層や障がい者など多様な市民との交流による「共生のまち」を実現するため、江別版「生涯活躍のまち」構想を平成 29 年 3 月に策定し、社会福祉法人日本介護事業団を代表法人とした、つしま医療福祉グループが事業主体となり「ココルクえべつ」を開設した。

○CCRC (Continuing Care Retirement Community) とは？

高齢者が健康なうちに移住し、終身で暮らすことができる生活共同体を指し、アクティブシニアタウンとも呼ばれ、1970 年代にアメリカでスタートした。日本版 CCRC では高齢者が地方に移り住み、地域社会において健康でアクティブな生活を送るとともに、医療介護が必要な時には継続的なケアを受けることができるような地域づくりを目指しています。

【事業内容】

- ・特別養護老人ホーム
- ・介護老人保健施設
- ・介護小規模多機能型居宅介護事業所
- ・就労継続支援 A 型事業所
- ・障がい者グループホーム
- ・サービス付き高齢者向け住宅
- ・あさのわ保育園
- ・パン工房「あさのわ」
- ・レストラン「開拓うどん」
- ・レストラン「こう福亭」
- ・ココルクの湯
- ・あじさいパークゴルフ
- ・交流農園
- ・トラフグの養殖



行政視察報告書

視察内容・感想等

① 視察先での特記事項（当日の質疑応答事項等）

Q：事業費の概要は？

A：事業費は45億円で全て民間から支出したが、市から利子補給はあった。土地代は坪単価1万円で約10,000坪を購入。江別市から協定により年数百万円の人件費をもらっている

Q：各種テナントの運営状況は？

A：レストラン、パン工房が赤字の状況

Q：各種テナントを運営する就労継続支援A型作業所の障がい者就労状況は？

A：入所者全員が仕事につけており、障がい者年金と合わせて自立できる収入を確保している

Q：地域交流拠点としてのイベントや取り組み状況は？

A：多世代交流サロン、地域の遊びの広場、小中学校との交流、ボランティア活動等

② 評価・感想

・「ココルクえべつ」は障がい者の就労支援や高齢者福祉、市民交流の場等多機能施設であり、施設内では障がいを持つ方々が自信を持って働ける環境が整備され、市民が気軽に立ち寄り交流を楽しめるスペースもあり、地域全体がつながる場として機能している点が印象的だった。

・高齢者に対しては、生活支援や健康維持を目的としたプログラムが充実しており、多世代が交わる空間となっており、誰もが気軽に立ち寄ることのできるタウン型施設であった。

・「ココルクえべつ」は単なる施設にとどまらず、地域の課題を解決する拠点であり、多様な人々が共に支え合う社会の縮図であり、見学を通じ地域の中で互いに支え合うことの大切さと、誰もが役割を持ち活躍できる環境の素晴らしさを再認識することができた。

③ 岡谷市政に反映すべき点は何か

・多機能な施設は難しいかもしれないが、障がい者や高齢者の地域全体を巻き込んだ交流の場。

・障がい者の就労支援や市民交流、高齢者支援を行う一体的な施設は効率的であり、世代間交流もできる場所の提供は、特定のターゲットだけでなく地域全体に恩恵をもたらす点で非常に有益な取り組みである

・利用者が自分のスキルや可能性を活かせる、複数の具体的な就労機会を提供する取り組みは、社会的自立を促しつつ地域経済にも貢献する。

・市民が気軽に訪れ交流できるオープンスペースの設置や、多世代が自然に関われる工夫は、地域コミュニティの強化に繋がるため、施設を単なる支援の場としてではなく、人と人が繋がるハブとして位置付けることで、孤立を防ぎ地域力を向上させる効果が期待できると考える。

④ 岡谷市政として取り組んだ場合の課題、問題点

官民が連携し進めることは大前提だが、施設整備にあつては全てを民間に委ねることは、多額の資金を要することから難しい部分もある。収益性でみると話を聞く限りでは厳しい状況もうかがえることから、公的資金の拠出も一定程度は必要で、費用対効果をどう考えるか難しい部分がある。

⑤ 視察市から受けたまち全体、あるいは市政全般の印象等で特記事項

・江別市では子どもの転入超過が全国17位で、子育て支援が奏功しているといえ、札幌までのアクセスや、新築・持ち家率の高く、緑豊かで暮らしやすい土地が人気の秘訣と言える。

・大学が4つあり高校卒業後の進路選択のしやすさ、病院数・医師数も多く医療体制の充実も転入超過の要因となっている。

レストラン「開拓うどん」



トラフグの養殖場



パン工房「あさのわ」

